

# 公益社団法人 日本山岳会

# 宫崎支部報

第68号



2019.4.13 宮崎市中央公民館 支部長 荒武 八起(10735)

第36回宮崎支部通常総会を終えて

平成31年4月13日、宮崎支部第36回通常総会を終えました。支部会員数48名中、当日参加者30名(委任状18)という盛会の内に議案審議が出来た事を有り難く存じます。わたくし共、新役員になりまして早や二年となりました。これまでの皆様の温かいご支援ご教示に対して厚くお礼申し上げます。ここに、総会の概要と若干の私見を述べさせていただきます。

#### <総会の総括>

#### 1.支部活動報告

#### A. 公益事業

①ときめき家族登山in 高房山:児童12名を含む33名の参加が得られ、支部会員20名で案内しました。以前は「子供登山教室」として公募登山を続けてきましたが、父兄・祖父母の中から日本山岳会に入会される方がおられるのではないかとの期待を込めて「家族登山」に変更しての第2回目でした。山行の途中でネーチャーゲームや会員による蜂刺され対策の講話などを行いました。下山後の参加者からの感想は好評で、次回も参加したいという声が多く聞かれました。②第34回宮崎ウエストン祭:この式典は、ウエストン氏

が明治23年(1890年)11月6日に祖母山に登山されたという五ケ所の旧家・矢津田家に残る日記に基づき例年11月3日(文化の日)に、高千穂町と宮崎支部共催で行っています。当日の参加者は、高千穂町当局、地元の方々、地元小学校の児童、そして北九州支部会員17名、熊本支部会員11名、東九州支部会員12名、宮崎支部会員20名を含め、総勢170余名でした。会場の五ケ所高原三秀台は文字通り、正面に祖母山を仰ぎ久住山、阿蘇山など九州の名峰が遠望できる風光明媚な高台で、ここにウエストン師の生家から贈られたヨーク石を使った洋鐘付きの高さ7mのウエストン碑があります。晩秋の三秀台周辺は、民謡「刈干切り唄」にあるように雑草を刈った後の美しい丘が連なり、周囲をたおやかな山々が囲んでいます。今年は全国の山仲間の多数のご参加をお待ちしております。

③日本一早い山開き・諸塚山:諸塚村と朝日新聞社共催、宮崎支部後援で毎年開催されていますが、あいにくの雨で式典は中止されました。しかし、熊本支部との交流会を兼ねた今回は諸塚村六峰館において、諸塚村関係者も含めて大いに飲み懇親を深めることが

できました。

④宮崎家庭裁判所委託登山:「少年補導登山」は、今回で25回となりました。少年2名とその保護者を家裁関係者5名と支部会員7名でサポートしながら双石山を歩きました。登山前は、無口だった少年も一汗かく頃には心を開き、会話も成り立つようになり、下山した時は笑顔も見せてくれました。登山という行為を通して共に汗をかき、自然の美しさを共有することの大切さを実感した山行でした。

⑤他の公益事業としては水源の森づくり、宮崎市近郊にあり市民の憩いの山でもある双石山の清掃登山や登山道整備等を行いました。また宮崎市中央公民館まつりにおいては日本山岳会および支部活動を紹介するパネルや写真展示を行いました。

#### B. 共益事業

定例登山研究会:毎月第一木曜日開催(19:00~21:00)、当することになりました。全国支部懇談会は年一回の 延べ参加者は275名 ペースで全国33支部の持ち回り開催ですが、宮崎支

定例山行等:原則毎月一回開催、延べ参加者は278名

#### 2. 支部会計報告

支部活動は、会員一人あたり2,000円の本部からの交付金と支部会費3,000円の予算で行っています。財源的には不十分で支部活動の制限も余儀ない状況にあります。資金不足は他支部においても同様のようであり、支部によっては諸団体から協賛を得ているところもあります。宮崎支部は、これまで協賛を得ずに凌いできましたが、今後は何らかの方策を考えなければならないかも知れません。

#### 3.今年度の事業計画および予算案

公益事業、共益事業とも例年どおり引き続いて進めます。山行については、例年原則月一回でしたが、今年度は二回という月もあり、より積極的な山行を計画しています。予算については、当面は限られた財源の無駄のない利用に主眼をおくことになりました。

#### 〈支部を取り巻く諸問題〉

#### 1.会員の増強

現在、宮崎支部における会員数は48名(支部会友20名)の合計68名です。2013年ピーク時の125名から年ごとに減少し続けて現在に至っております。このような状況の中ではありますが、今年度に入りまして新しく6名の会友に加わって頂いたことは誠に有り難いことであります。この方々の中から会員が誕生し、会員減少に歯止めがかかる事を心より願っております。

#### 2. 高齢化問題

会員の高齢化問題については、若い会員の獲得が

必須である事は当然ですが、見方を変えれば、それだけ永く会員として在席できる魅力が日本山岳会にあると考えられるのではないでしょうか。若い人は若い人なりにより高く、より厳しい山を目指し、里山だけでいい人はのんびりと、そして麓の散策で良い人はそれなりに、それぞれが自分のスタイルで楽しめれば良いと思います。

#### 3.遭難•事故防止対策

多くの会員が高齢となった現在、脚力やバランス能力の低下が問題となります。遭難・事故防止につきましては、最重要課題として山行委員会を中心に安全登山や体力増強に関する講習会等の開催が今まで以上に望まれます。

#### 4.支部会員の力を結集

来年(2020年)5月には第36回全国支部懇談会を担当することになりました。全国支部懇談会は年一回のペースで全国33支部の持ち回り開催ですが、宮崎支部は1986年に第4回を担当しましたので、34年ぶり2回目の担当となります。全国から約150名の会員が参集されますので、参加された会員に宮崎の良さを満喫して頂けるような企画・運営が望まれます。宮崎支部は会員数が多くありませんので、会員の皆様の全面的なご支援を切にお願い申し上げます。

また、11月の宮崎ウエストン祭、そして3月の諸塚山 開きも今年は第35回という節目を迎えます。これら一 連の事業が例年に増して盛会となりますようご協力を お願い申し上げます。



総会後の懇親会参加者 ひまわり荘



全員で山の歌を合唱し、懇親会を終えた

# 第36回通常総会報告(概要)

事務局長 都甲 豈好(12057)

第36回通常総会を平成31年4月13日(土)に宮崎市中央公民館において開催した。以下に概要。

#### 出席数

支部会員数48名中、当日出席者30名、委任状18名

#### 第1号議案

平成30年度支部事業報告、平成30年度支部決算報告、平成30年度監査報告

#### 第2号議案

平成31年度事業計画案、平成31年度収支予算案、 平成31年度定例山行計画案

#### 第3号議案 支部役員改選案

以上の3議案について審議した結果、いずれも賛成 多数で可決された。

## 平成30年度事業報告

- 1. 役員・委員長会 14回開催、参加者延べ127名
- 2. 定例登山研究会 12回開催 参加者延べ275名
- 3. 定例山行等 16回開催 参加者延べ278名
- 4. 自然保護活動 3回開催
- 5. 支部報発行 4回
- 6. 他 宮崎市中央公民館まつり、宮崎家庭裁判所 委託登山

#### < 支部役員会 任期2019.4~2021.3>

	役職名	氏名		
顧問		末永 軍朗		
	支部長	荒武 八起		
支	副支部長	日高 研二		
部 副支部長		事務局長兼務		
役	事務局長	都甲 豈好		
員 会計 多		多田 周廣		
監事		橋口 光博		
		栗林 淳子		
		石井 久夫		
	自然保護委員	前原 満之		

# < 支部各委員会 任期2019.4~2021.3 >

委員会名	委員長	副委員長	委員
総務	谷口 敏子	多田 登美子	
集会	日高 研二	清水 弘子	清家 順子
	加自 占 .	武田 芳雄	川越 政則
山行	畑島 良一	平田 五男	服部 澄子
自然保護	前原 満之	四宮 林三	橋口 三枝子
広報(インターネット)	久峩 慧子	拵 恵子	
	荒武 八起	都甲 豈好	久峩 慧子
支部報編集委員会			谷口 敏子
<b>人</b> 部 報 編 果 安 貝 云			多田 登美子
			拵 恵子

#### 平成31年度定例山行等計画

	月日	曜日	山座名·行事名等		
	4月20日	土	新入会員歓迎山行		
			御在所岳(530m)、鹿児島県		
	5月12日	日	定例山行		
			遠見山(245m)、宮の浦地区		
1	5月25日~28日	土~火	全国支部懇談会(奥日光等)		
^			大菩薩峠、三つ峠		
	6月9日	日	定例山行		
			白岩山(1620m)、向坂山(1864m)		
	6月15日	土	都井岬 扇山		
	7月20日~21日	土、日	定例山行		
Ì			久住山(1786m)		
	8月11日	日	山の日関連行事		
			市山岳協会と共催		
	8月17日	土	横岳(1094m)		
			鹿児島県		
	9月7日~8日	土、日	定例山行		
			開聞岳(924m)		
	9月14日~16日	土~月(祝日)	剣山(1955m)、四国		
	10月12日	土	ときめき家族登山		
			遠見場山(185m)、島の浦		
	10月19日~20日	土、日	双石山、小屋泊		
	11月3日~4日	日~月(祝日)	第35回宮崎ウエストン祭(三秀台)		
			記念登山•祖母山周辺		
	12月7日	土	朝陣野(839m)		
	12月14日	土	清掃登山•双石山周辺		
	1月11日	土	定例山行 日南大島探索		
	1月18日	土	支部懇準備		
	2月15日	土	支部懇準備		
	2月29日	土、日	諸塚山(1341m)、山開き		
	~3月1日				
	3月14日	土	支部懇準備		
	その他	上記山行の他に	・ こ交流登山(九州5支部、熊本支部)などがある。		



# 第34回日本一早い山開き・諸塚山 3月2-3日

### 盛り上がった懇親会

櫻木 勉 (13818)

「日本一早い」をキャッチフレーズに早春の山を楽しむ平成最後の「諸塚山山開き」は、34回を迎えたが、あいにくの雨のため式典は中止となった。しかし、前夜祭・交流会は諸塚村長西川氏をはじめ地元の方8名、そして熊本支部17名、宮崎支部18名、総勢43名で賑やかであった。

西川村長は挨拶の中で、諸塚村・朝日新聞社・宮崎支部の強い絆で継続している平成最後の山開きが中止になって残念であること、諸塚村はFSC(森林認証制度)の認定を取得して現在建設中のオリンピック会場にも木材を提供したこと、林業立村として活発に村おこしをしている様子などを語られた。熊本支部・中林支部長は、高齢化・会員減少の中で若い会員が少し増えたので色々な計画をしていると述べられた。余興として、ひょっとこ踊りの宮崎バージョンを披露するなど賑わいを増した。18時から始めた一次会は、二次会、三次会と続き夜が更けるのを忘れさせる盛況ぶりであった。

翌日、熊本支部は黒岳(1,455m)に登るとの事で、 我々は登山口まで誘導案内した。相変わらずの雨 で宮崎支部は登山を中止し、みやざき新巨樹100選 の一つである小原井神社のトチノキ(根周り6.7m、樹 高32m、推定樹齢400年)を見学した。なお、前日には 福瀬神社(日向市)の世界に誇れるハナカガシ(根周り 5.3m、樹高30m、推定樹齢300年)を前原会員の案内で 見学した。それぞれの古木・巨樹には学術・文化的に 価値があり、郷土の名木として大切に保存されている。

東郷道の駅で昼食して、宮崎県が誇れる歌人である若山牧水の資料館・若山牧水記念文学館を訪ねた。 国民的歌人と慕われ、生涯9,000首の短歌の他、紀行文や随筆も多数記したと記録されていた。思わぬ雨の影響でしみじみと当時を想い、感動する得難い時間を過ごせた。

来年の諸塚山の山開きは、日程の変更も検討されているようだが結論は出ていない。継続することは大変であるが、地道に続けていく事が山を愛する人達の集いの場として無くてはならないものに進化して欲しいものである。

前夜祭・交流会のために、色々とお世話頂きました諸塚村の皆様に心より感謝申し上げます。

< 参加者>宮崎支部18名: 拵恵子・谷口敏子・多田登美子・橋口三枝子・日高恵子・日高キョ子・中武照子・石井久夫・前原満之・荒武八起・都甲豈好・川畑康雄・日高研二・谷口菊美・武田芳雄・酒井保男・櫻木勉・畑島良一熊本支部会員17名



前夜祭/交流会(3月2日): 諸塚村村長・西川氏をはじめ地元の方々、熊本支部会員、宮崎支部会員



3月3日朝:宿泊施設•六峰館前

# 【1月定例山行】 高砂城山(202m) 1月13日(日)

#### 神話と史実に彩られた身近な里山

真っ青な空と暖かな微風、弾む気持ちで4台の自家用車に分乗して、宮崎産経大駐車場を出発。鵜戸神宮参拝、吾平山散策後、高砂城山登山口へ向けて車を走らせる。登山口到着後、軽い準備体操をして出発。山頂迄の登山道にはいくつもの柔和な表情の石仏が置かれていて気持ちを和ませてくれた。途中急峻な所もあったが50分で山頂に到着。山頂は西に開け、眼下には市街地を囲んでのどかな田園風景が開けており、遠くは東南に日向灘、西に男鈴山と女鈴山、北西には小松山の眺望が素晴らしかった。山頂で昼食を済ませて下山。下山後に見た案内板に、伊東氏と島津氏が飫肥城攻略をかけて争った城だという説明があり、途中のあの急峻な道も納得させられた。その後花立公園に向かう。桜

#### <コースタイム>

宮崎産経大駐車場8:40—鵜戸神宮9:50着参拝—吾平山散策11:20—高砂城山登山口11:00—山頂着11:45—昼食—出発13:25—登山口14:00—出発14:10—花立公園14:40—宮崎産経大駐車場15:50解散。

# 【2月定例山行】青井岳

# 島津・伊東両藩の攻防の山

青井岳は、私は初めての山である。宮崎百山を開いて見ると、青井岳は古くから宮崎平野と都城盆地を結ぶ重要な交通路で、戦国時代から大淀川支流の境川を挟んで、島津・伊東両藩の攻防の要所で、「青井岳を制するものが日向を制す」と言われていたと記されている。

朝8時、小雨の中、清武ナフコ駐車場に14人集ま り、3台に分乗し青井岳登山口に向かう。今回の登山 口は岩屋野登山口(高城)への縦走路の拠点である、 飛松川簡易水源地側からである。青井岳キャンプ場 を過ぎると急に道幅が狭くなり車一台がやっと通れる 程であった。青井岳登山口の脇に車3台を縦列駐車 する。9時、小雨が降りやまぬ中出発。はじめはよく 整備された登山道であったが、白いプラスチックで 覆われた幼杉が目立ちだした。鹿に食べられない為 だそうだ。左わきの「登山道」という目立たない標識 をたよりに行くと、いきなりの急登。しばらく行くと尾根 に突き当たり、その後は尾根沿いを歩いてゆく。9時 30分 雨は止まないが、きれいな眺めを見ながら5分 休憩。10時15分山頂。「晴れていれば宮崎平野や霧 島山が見えるはずだった」と残念がっていたら、急に 雲が切れ、高千穂の峰がくっきり見えた。これには全 員大感激で歓声が上がった。雨の中を登って来て 思いがけない褒美をもらった。

#### 久峩慧子(12563)

の並木道を走る。大島桜の花が2、3本花を付けていた。 満開時のウォーキングも素晴らしいだろうなあと想像し ながら帰途についた



< 参加者13名 >

久峩慧子・清水弘子・谷口敏子・多田登美子・栗林淳子・ 日高恵子・日高キョ子・前原満之・荒武八起・日高研二・多 田周廣・四宮林三・畑島良一

# (563.2m) 2月9日(土)

#### 林田 明美(16928)

下山ルートは、赤テープも標識もほぼ無い沢を下った。リーダーのHさんを先頭にルートファインディングしながら枝払い・藪こぎ、大人のアドベンチャーを楽しんだ。次は、岩屋野から国見山・ケラガッカを越える旧薩摩街道を越えての青井岳もぜひ体験したいと思った。下山後の楽しみの青井岳温泉がとても気持ちよく、肌のスベスベ感は1週間続いた。

#### <コースタイム。

清武ナフコ駐車場8:00-登山口9:00-山頂10:06-山頂発10:15-登山口着11:28

<参加者14名> 拵 恵子・服部澄子・橋口三枝子・林田明美・ 日高ケイ子・河野啓子・高橋節代・前原満行・乾正太郎・末永 軍朗・武田芳雄・四宮林三・福島龍好・林田隆利



#### 【自然保護委員会】 「森づくり活動」

平成29年2月以来の野尻の森の育林作業を行った。 参加者は直前に都合のつかなくなった会員もあり、結 局自然保護委員3名と元会員の有木さんの合わせて 4名であった。

昨年の台風24号で、元々生えていたシンボル的存 在のケヤキが折損し、すでに切り倒されていた。我々 が植えたカシ等も折損が見られ、また枯れ枝も散乱し ている。有木さんの要望で谷底の排水溝を根で傷め



# 野尻の森育林作業 2月24日(日)

前原満之(9878)

る恐れがある木を数本切る事とした。他に折損した枝 なども含め、有木さんと前原で2台のチェンソーを使 い作業した。あとの切った枝や枯れ枝を2人が整理 する。休憩時には橋口さん持参の甘酒、有木さん差 し入れのみかんで疲れを癒す。

〈参加者 4名〉 橋口三枝子・前原満之・四宮林三 有木重昭(元会員)



有木さんからは土佐文旦とはるか、2種類のミカンの差し入れ。

#### 「小さな森づくり」 荒武 八起 (10735)

孟宗/大名の竹林と畑との境界約150坪(約5アー ル)にクヌギ30本、モミジ10本、ヤブツバキ5本を植 樹した。クヌギは十数年経たなければホダ木として 使えないので、生きているうちに椎茸が見られるか 定かではないが、畑への竹林の侵入を少しでも抑 制できればとの思いもある。モミジは夏場の畑仕事 の休憩時に木陰になればと願っているが、これも何 年かかるだろうか。

森には様々な機能がある。「森ナビ」を参考にする と、地球環境保全機能(地球温暖化防止)、土砂災 害防止·土壤保全機能、水源涵養機能、快適環境 形成機能、保健・レクレーション機能、生物多様性 保全機能、文化·教育機能、物質生產機能(木材、 きのこ類)などが上げられている。海の魚介類のた めに漁師さんたちが森づくりをしている話もこの一 つに入るのだろう。

私の場合、公益性は無く、とても森づくりの範疇に は入らないが、退職を機に何か育ててみたくなった。 今、竹林を整理しているが、終われば下の田んぼ から吹き上げる風を楽しめる東屋の手作りをと我儘 な事を考えている。

諸 塚 ひ春日をたつより 吸 はす

牧

1/3

年風

に耐

えきて室覆ふち

ノ木仰ぎ声なく立て

かり

ara farkina ara farkina ara farkina ara maharkina ara farkina ara farkina ara farkina ara farkina ara farkina a

ゆく の雨 山 談義 霧が黒岳の裾野這 山 男らの声が飛び交 ひ上

往 来 谷 17 敏子(一三〇六二)

諸

烬

神

棚

种

塩

14

供

豬

塚行きの支度整ふ

田

畑

# 狗留孫峡(くるそんきょう)物語

#### 「前編」

#### 狗留孫(くるそん)の由来

建久二年(1191)年宋から平戸に帰着した臨済宗開祖・栄西が布教活動を開始し、日向国白髪岳に狗留孫寺を建てたとの記録が残されている。この場所は球磨越えの要地でもあり、熊本の相良に抜ける信仰の道でもあった。現在の狗留孫神社は長年の遍歴を経て寺から神社になったものと思われる。

物留孫神社への散策路は、えびの市上大河平(おこびら)集落を起点としてかつての森林鉄道の軌道跡を歩く。頭上に2000年3月に竣工した「狗留孫大橋」があり起点から上流約2kmまで続く用水路は享保17(1732)年に完成した享保用水路である。この享保用水路は現在、国の有形文化財になっている。スタート地点は「石床」という。スタート地点はぼ同じ地点にフランス製材工場の跡がある。「フランス山」は日仏共同出資になる東洋製材株式会社がフランス山と呼んでいたことからきている。「石床」から「崩石」までは大正8年頃を最盛に川に張り付くように人家が並んでおり「狗留孫神社」下から「石床」までの間に大きな水車付きの製材所が5つもあった。

#### 苗杉

大正8年当時、苗杉の広場から500mほど先の場所にも林業従業員の住宅があった。また、「狗留孫山」という山はないが、狗留孫神社の南や西に広がる山塊を指して呼ばれていたようである。

#### 八ケ峰分校

熊本県球磨郡あさぎり町にあった上村小学校の分校として明治41年、八ケ峰分校が開校した。九名の児童であった。その後、徳富蘆花の紹介で龍田という先生が赴任してきた。龍田は小学校の環境に失望し一旦は東京へ引き上げるが、25年後の昭和20年4月八ケ峰に疎開してきた。婿養子になり三上と名を変えた瀧田は学童の教育に当たる。父親と共に教師として働いていた娘慶子は、26年に「月明学校」を発行する。その中に、当時中学生であった皇太子明仁親王(上皇陛下)の家庭教師であったエリザベス・グレイ・ヴァイニング夫人に関して興味ある記述がある(後編)。

#### 崩石―くずいし

八ケ峰から2km先、起点から10km分かれ道があり右 折するとあさぎり町上へ、そのまま直進するとかつて の森林鉄道の軌道跡の道となる。地形図では分岐 点の標高は498m。この分岐点には「狗留孫神社」 参拝の車二台分の駐車スペースがあったとあるが今

#### 多田 周廣(13780)

は藪の中か。駐車スペースのある分岐点から約870 m上流「又五郎谷」から大平に向う軌道と万年青平 (おもとんでら)を通って北上する軌道があり、終戦直 前の夜中に、その上空を飛んでいたゼロ戦が、米軍 機の攻撃を受けて墜落したという。

#### 大平官行斫抜所(おおひらかんこうしゃくばっしょ)

昭和3(1928)年、熊本営林局加久藤営林署所轄 大平官行研抜所が開設された。研抜所開設にあわ せて、吉都線の飯野貯木場が設置、貯木場と大平 官行研抜所を結ぶ森林鉄道(トロッコ軌道)が開設さ れ研抜所近辺には山林労働者の住宅、共同風呂、 日常雑貨店などが作られ昭和初期から昭和40年の 間に200名近く住む集落となった。トロッコ列車は飯 野貯木場から大平官行研抜所20kmを2時間半、時 速8kmで走っていた。大平官行研抜所に生活する小 学生・中学生は八ケ峰分校に通うことになるが今は その面影はない。

#### 「後編」

#### ヴァイニング夫人 八ケ峰分校訪問記

昭和25年10月にヴァイニング夫人は八ケ峰分校を 訪問したが、そのきっかけは、三上慶子の恵泉女学 園の先生であった高橋たね子がヴァイニング夫人の 秘書であったことによる。夫人と高橋たね子の分校訪 問は、教育者として僻地教育に興味を持っていた事 をうかがわせるエピソードである。訪問当日の様子は、 「月明学校」に「ヴァイニング先生を迎える」と題して 11ページにわたり記述されている。以下に抜粋する。 ・・・私たちは朝から自動車で奥深い山を越え、また 飯野からの長いトロッコ道をガソリンカーという小さな ジュラルミンの車に揺られて学校に着いた時、子供た ちはまるで物につかれたような熱心さで拍手をした。夫 人は深いみどりの眼の中に何ともいえない純な愛情を たたえて子供たちの拍手にうなずかれた。夫人の丈高 くすらりとした姿を前にして、子供たちの表情も興奮の てっぺんにあった。・・・この後、子供たちは、竹登りを 披露したりして、はじめは硬くなっていたが、すっかり 運動会気分になった。頭を振りながら走ってくる子供 たちに体を屈めて拍手される夫人の姿にいっそう掻 き立てられた。記念植樹、記念写真撮影などが行わ れるうちに滞在時間2時間が迫り、別れの時間となっ た。・・・夫人は子供たちの前に立ち止まると、優しい声 で「さよなら」を言われた。しかし、子供たちははにかんで 突っ立っていた。次にヴアイニング先生が美しいソプラノ の日本語で「さよなら」と言われると、子供たちも釣り込ま れたのか一斉に頭を下げて挨拶した。夫人はたちまち「さ よなら」の雨に包まれ、言葉を出す暇がなかった。子供

達は日米国旗の小旗を紙が千切れるまで振りながら「さよなら」を叫んだが、大粒の雹が蓮の葉をたたくようにその声はガソリンカーになだれ込んだ。夫人は、白い美しい手をカーぱい振って子供たちの姿が完全に見えなくなるまでは止そうとされなかったし、子供たちもまた私たちが見えなくなるまで叫び続けていた。そして、子供達にとってこれ程嬉しい日はなかったが、また、これ程名残惜しい別れもなかったと見えた。わずか二時間足らずの短い間であったけれど、ヴァイニング先生が山の子供に与えた感化の深さを私は強く感じた。この六年の月日に多くの人たちが山に来られたが、私はヴァイニング先生程、子供たちに自然な打ちとけた態度で接しられた方を一人も知らない。

#### ヴァイニング夫人のことば

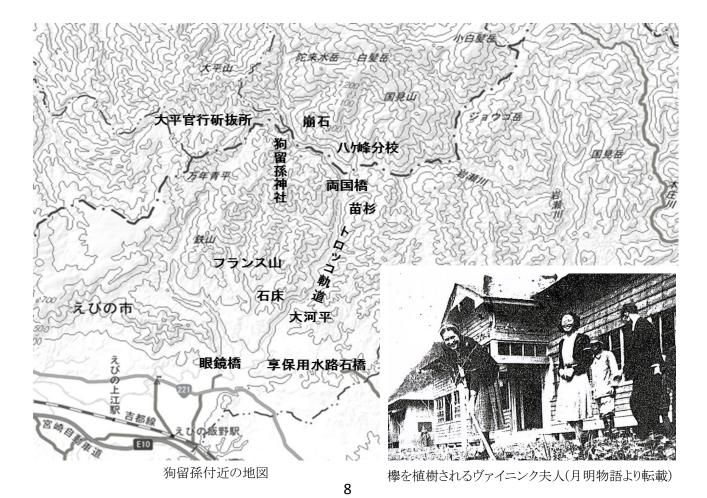
小説「月明学校」の序文に、以下のようなヴァイング 夫人の言葉がある。

「1950年の秋、私が日本からお別れする時、天皇・皇后両陛下の特に御懇切なご配慮により、九州を旅させて頂〈事になりました。その往き帰りの途中、数々の美しい興味深い名所に心をとどめましたが、この旅行の目的は以前に耳に致しました小さな学校であったのです。この学校は山深い谷間に生活する樵

や炭焼きの子供達のために、一人の先生と熱心な お嬢さんが経営していたのです。その学校と付近を 訪ねて、三上さんとお父様とご一緒に過ごしました 日々は、私の日本滞在中最も思い出深い幸福な 毎日でした。美しい景色に囲まれた興味の尽きない この小さな学校、子供たちの元気の良い顔、心から 親しげな歓迎、彼らをとりまく自然への細やかな愛情、 これらすべてのこと、その他多くのことは献身的な先 生方より彼らが受けたご指導によるものであることは明 瞭なことでした。三上さんは、このユニークな学校の 物語をご自分でお書きになりました。私のように、この 学校を訪れることの出来ない児童達や、又教育に 興味をもたれる多くの方々が、この書を手に取られて その喜びを分かち与えられ得ましたことを、心から私は 感謝いたします。」[昭和25年10月23日 エリザベス・グレイ・ ヴァイニング〕

ヴァイニング夫人が八ケ峰を訪れて約70年経っているが、その時植えられた欅の木も大きくなっているだろう。この深山にこのように心温まる素晴らしい時間があったこと、子供達の歓声が響き渡ったことを忘れずにいたいものだ。

参考文献: 三上慶子著「月明学校」 目黒書店 昭和26年発刊



# 宮崎の自然 ミズナラ

日本の植物帯は気候により亜寒帯(エゾマツ、トドマツ域)、温帯(ミズナラ、ブナ域)、暖帯(ヤブツバキ域)、亜熱帯に区分され、宮崎県の平地は暖帯、1,500m付近の高地は温帯系に属する。

ミズナラはミズナラ、ブナ域に属する場所に生育し月平均10℃以上の月が4~6ヶ月続く九州山地(九州脊梁山地)がそれに当たる。ミズナラ、ブナ域は、年平均気温6~13℃、寒い時は-15℃となり樹木は環境条件のきびしい時期に活動を中止して葉を落とし消耗が少なくなるように適応している。

なお、植物帯は平地のみならず高度により高山帯、 亜高山帯、山地帯、低地帯、または常緑針葉樹林 帯、夏緑広葉樹林帯、照葉樹林帯に分けられる。宮 崎の標高1,500m付近は代表的なミズナラ、ブナの 夏緑広葉樹が分布して、霧島錦江湾国立公園のえ びの高原では白紫池、六観音御池、不動池をめぐ る自然観察コースが設けられ登山口を少し上がった 場所にミズナラの群落がある。ミズナラはブナと共に 温帯林の代表的な樹種で宮崎の山地1,500m付近 に広く分布している。ミズナラの分布している山地は 四季の変化が著しく春の新緑、秋の紅葉と季節感 に富む場所でえびの高原ではあちこちにミズナラの 森林が存在している。

ミズナラは落葉高木、高さ30m径1m以上の大木となる。雌雄同株で花期は5月、雄花序は新枝の下部から数個出て下垂、雄花は直径2.5mmで5~8個付

#### 石井 久夫 5120

いている。雌花は新枝の上部葉脈から出て短く1~3 花を付ける。殼斗は杯状高さ1~2cmで北海道、本州、 四国、九州の温帯を中心に一部亜寒帯に及びブナと の混生が多い。ブナと共に日本を代表する樹でブナ より陽性が強く南限は鹿児島の高隅山である。

材は環孔材で放射挿し木がある為に柾目に美しい 紋様があらわれ家具材として重用され建築機器具材 に使われる。また、ウイスキーの洋酒樽に利用され工 芸的利用として洋楽器の化粧板にもなる。

秋に18~20mmの堅果ができ、アク抜きをすれば食料となるが最近は殆ど食べられていない。縄文期には冬の貴重な食糧であった。楢の実とはブナ科コナラ属の堅果の総称で団栗(ドングリ)と呼ばれ古くは柞(ホホゾ)の実と呼ばれていた。ミズナラの由来は幹や枝に水分が多くその為燃えにくいので水楢という。

#### <メモ>ミズナラ Quercus mongolica

山地に生え大きいものは 高さ35mくらい、樹皮は黒 褐色を帯び縦に不規則な裂 け目がある。葉は互生と がは短い。木材の用途としては建築機器具材、キー では建築機器具材、キー の原木。分布は北アジド の原木。ウンアではレコ本東 北部。ロシアでは減危惧種である





日向市、福瀬神社のハナガカシ



高千穂町、下野八幡宮のケヤキとイチョウ



諸塚村、小原井神社のトチノキ

# みやざきの巨樹めぐり

11月、ウエストン祭への途中、高千穂町の下野八幡宮に立ち寄り、ケヤキとイチョウの巨樹を見学した。これらは国指定の天然記念物で、他に逆さ杉や有馬杉などの大木もあった。3月には諸塚山・山開きへ行く途中に日向市・福瀬神社のハナガガシを、そして帰りには諸塚村・小原井神社の鳥居横にあるトチノキを観察した。この木は全国トチノキ番付に上がるほどの巨樹である。トチノキは5月頃に紅色~白色の花を咲かせ秋にはクリに似た大きな実を付ける。(文責:荒武)

# 支部行事予定

# 「事務局だより〕

月別	行事名	期日	備考
4月	御在所岳(530m)	4.20(日)	鹿児島
5月	遠見山(245m)	5.12(日)	延岡市
	全国支部懇談会及び記念山行	5.25(土)~28(火)	栃木、他
6月	白岩山(1620m) 向坂山(1864m)	6.9(日)	五ヶ瀬町
	扇山	6.15(土)	串間市

#### 支部会務報告(1月-3月)

月日	事業 ・ 行事	開催場所	人員	備考
1.10	支部役員•委員長等会議	宮崎市中央公民館	8	H31事業計画書・予算書提出について
1.10	第238回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	17	に講話:週1回の低山登山の効用について
1.13	1月定例山行	日南市	14	高砂城山
1.24	第36回全国支部懇談会準備委員会	宮崎市中央公民館	17	役割分担・開催予定日・募集定員・宿泊ホテル等
2.7	支部役員•委員長等会議	宮崎市中央公民館	8	第36回全国支部懇談会について
2.7	第239回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	15	双石山分収林伐採後の利用について
2.9	2月定例山行	都城市	14	青井岳
2.24	野尻の森育林作業	小林市	4	育林作業
3.2~3	第34回諸塚山開き	諸塚村		雨天のため山開き式典は中止
3.2~3	交流会·懇親会	<b>泊</b> 塚竹	35	諸塚村地元の方8名、熊本支部17名:宮崎支部18名
3.7	支部役員•委員長等会議	宮崎市中央公民館	8	H31通常総会について
3.7	第240回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	24	H31定例山行等計画、役員選考委員会報告
3.16	双石山・加江田渓谷開き準備会	宮崎市 鏡水公民館	3	宮崎市山岳協会主催
3.16	双石山・加江田渓谷開き	宮崎市	9	宮崎市山岳協会主催:双石山登山•渓谷散策
3.17	わくわくの森第八回春の整備	綾町	3	育林作業

# グループ山行等(届け出分)

月日	山座	場所	代表者	人数	日数	備考
1.26	高千穂峰	宮崎県高原町	武田 芳雄	3	1	宮崎山友会
1.26 - 27	八ケ岳	群馬県	畑島 良一	9	2	麗山会
2.2	西林山	日向市、東郷町	武田 芳雄	2	2	宮崎山友会
2.10	冠岳	日向市、東郷町	武田 芳雄	6	6	宮崎山友会
2.17	西林山	日向市、東郷町	武田 芳雄	4	1	宮崎山友会
2.23 - 24	赤木山	群馬県	畑島 良一	6	2	麗山会
3.23 - 24	会津駒ヶ岳	福島県	畑島 良一	8	2	麗山会

#### 事務局からのお知らせ

- 1. グループ登山の届け出の厳守: グループで登山される時は事前に登山計画書を作成し事務局に提出して下さい。
- 2.日本山岳会団体登山保険加入のご案内:山岳登はん中の事故はもちろん、遭難捜索費用の補償、日常生活中のケガ、病気や介護、ガン等幅広い補償が受けられます。先ずは事務局にご相談ください。

#### 編集後記

新緑がまぶしい季節、新しい年度が始まりました。4月13日に開催された平成31年度支部総会で今年度の活動について色々討議がなされました。一つ一つの行事にそれぞれがそれぞれのスタイルで真剣に取り組み、充実した活気ある1年間にしたいものだと思っております。来年は宮崎支部が全国支部懇の担当になっています。皆様のご協力を宜しくお願い致します。4月1日発行予定の68号でしたが、支部総会記事を含めた関係で遅れましたことをお詫び致します。(K.K)

五月 室生犀星

悲しめるもののために みどりかがやく 若しみ生きむとするもののために まま などりはねし

ああみどりは輝く

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第68号

発行責任者: 荒武 八起編集責任者: 谷口 敏子 事務局: 都甲 豈好

〒880-0926 宮崎市月見ケ丘5-20-4

Tel, Fax 0985-53-0150

E-mail: <u>toko150@miyazaki-catv.ne.jp</u> 口座: ゆうちょ銀行 記号17330-2 番号9336371

名義人:(社)日本山岳会宮崎支部